令和２年１１月１８日

今日のシライ中

白井の愉快な仲間たち　VOl.31

イチョウ

西門のイチョウ

以前「ヤマモモ」のところで、「雌雄異株」の植物として紹介した「イチョウ」。今回は、白井中にも植えられている「イチョウ」について紹介します。皆さん、実は、「イチョウ」は、我々現生人類、ホモ・サピエンスの大先輩にあたる植物だと知っていましたか？そんなこと、知っているよ！失礼しました。初級編でしたね。「イチョウ」の歴史は古く、３億年ほど前まで遡ることができます。そうです。「生きている化石」です！（魚類の中で「生きている化石」として有名なのは？・・・その通り！「シーラカンス」ですね。）それに比して、我々ホモ・サピエンスの登場は、40 万年から 25 万年前と地球規模では、新参者です。

さて、まだ季節ではありませんが、「イチョウ」は美しく「黄葉」する木で、街路樹としてもよく目にします。では、なぜ、「イチョウ」「もみじ」は、「黄葉」「紅葉」するのでしょう？それは、「作った栄養を無駄なく利用するため」です。秋、これらの「紅葉」する木々は、来るべき「冬」のためにエネルギーを備蓄し、「春」の新しい命につなぎます。その際、「老化」した葉は、すでに光合成の役目を終え、枝から離れる仕組みが働きます。そうです。冬場の大事な養分、水分を役目を終えた葉に送ることはしないのです。我々人間の目から見ると、情のない・・・と思いますが、生き残るためにはごく自然なことです。（余談ですが、餌を探しに出る働き蟻は全て「おばあさん蟻」です。余命の短いものが危険な仕事を担うのです。これもまた、巣全体の保全・繁栄という大名目にあっては、ごく自然で合理的なことです。）（大名目　だいめいもく　意味は？想像してから調べてみよう！）

そういえば、この「イチョウ」の木は、よく神社にも植えられています。単に「美しい」から、植えられているのだと私は思っていました。しかし、今の３年生が、１年の時行った「地域学習」で、「イチョウの木は火災に強いから、神社等に植えられることが多い。」と教えていただきました。なるほど！とびっくりしたことを今でも覚えています。

最後に、「イチョウ」にまつわる昔話を一つ。東京の雑司ヶ谷には、今でも多くの参拝客が訪れる、「安産と子育ての神様」として有名な「鬼子母神」を祀った「鬼子母神堂」があります。そこのご神木は、「子授け銀杏」と呼ばれる「イチョウ」の大樹・老木です。このご神木に関するエピソード。その昔、人の子をさらっては食べてしまう「鬼子母神」に、子供をさらわれた多くの母親達が、その非道を仏様に訴えます。そこで、仏様は一計を案じ、数千もいる「鬼子母神」の子の一人を隠してしまいます。「鬼子母神」は、世界中その子を探しまわり、取り乱し、嘆き悲しみながら仏様に訴えます。そこで、仏様は、「数千の我が子のうち一人が欠けてもそれほど悲しいのに、一人しかないわが子を奪われた母親の悲しみはいかばかりか。考えてみなさい。」と諭します。それ以降「鬼子母神」は、子を奪うことなく、子供の守り神となったのです。失敗した者を切り捨てるのではなく、諭し、チャンスを与える。いい話だなぁ。うん、うん。で、ん？何でご神木が「イチョウ」？そう思ったあなたは、画像を見てください。この「イチョウ」の木から「乳」と言われる「気根」が垂れていますから。昔の人の想像力は本当に豊かで、慈悲深いですね。

イチョウの気根